



講師コラム「エネルギーの明日」

エネルギー・環境問題の専門家に、毎回、様々な角度からエネルギーの視野を広げるお話を伺います。

Vol.2

これからの暮らしとエネルギー

株式会社ビスネット代表取締役
消費生活アドバイザー
久留 百合子 氏



私たちの生活はエネルギー問題と密接に関わっています。けれども毎日の暮らしの中で、エネルギーについて意識することはそれほど多くありません。ライフスタイルの変化はエネルギー問題にどのような影響を与えているのでしょうか？またエネルギーを大切にする暮らしとは？消費生活アドバイザーとして活躍する久留百合子氏にお話を伺いました。



ライフスタイルの変化と地球資源

私たちの生活は戦前から戦後、さらに高度経済成長期を経て大きく変化してきました。戦前は扇風機さえないような暮らしでしたが、戦後になって便利な家電製品が多く発売され、高度経済成長とともに家庭へ普及していきます。今では家庭にエアコンがあるのは当たり前になっています。家電の普及は家事の省力化に貢献し、女性の社会進出にも少なからず寄与してきました。

一方で、家電製品の普及はエネルギー消費に大きな影響を与えています。近年、産業部門のエネルギー消費はほぼ横ばいなのに対して、家庭部門のエネルギー消費は増え続けています。人々が快適で便利なライフスタイルを求めてきた結果でしょう。

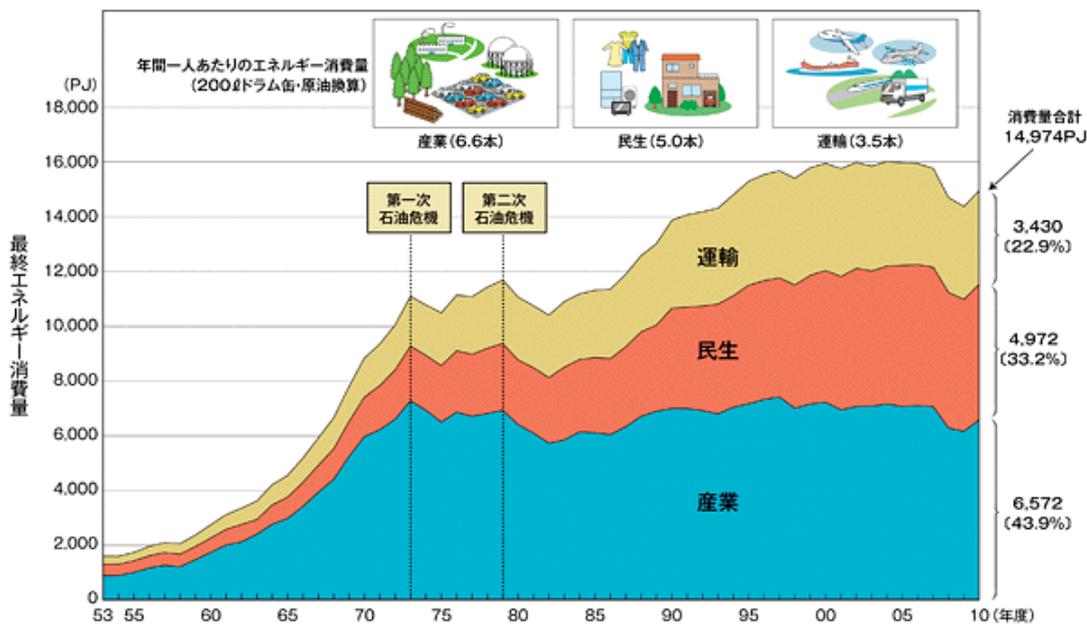
豊かな現代社会に暮らしていると気づきにくいのですが、エネルギー資源には限りがあります。例えば石油は、あと40年ほどで枯渇するといわれています。とりわけ日本はエネルギーについて大きな課題を抱える国で、資源の99%を輸入に頼っています。オイルショックや中東で紛争などが起こるとみんな危機感を持ちますが、騒ぎが収まるといつの間にか忘れてしまいます。私たちが当たり前だと思っている生活は、日本の厳しいエネルギー事情の上に成り立っていることをもっと自覚すべきだと思います。

暮らしのうつりかわり



出典:エネルギー環境ハンドブック「地球環境とエネルギー」(エネルギー環境教育情報センター)

エネルギーの使われ方



(注) 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある
 1PJ(=10¹⁵J)は原油約25,800kℓの熱量に相当(PJ:ペタジュール)
 ()内は全体に占める割合

出典:原子力・エネルギー図面集 2013

世界規模で進む地球温暖化の問題

私が今気になっているのは大震災以降、地球温暖化やCO₂排出の問題がほとんどニュースになっていないことです。原子力が止まっている今、さらに数値は悪化していると考えられます。加えて地球温暖化は日本だけの問題ではありません。成長が続くアジア諸国では今後さらにCO₂の排出が増えるでしょう。氷河が溶け出したり、冬場の雪が少なくなったり、大洪水が起こるのも地球温暖化と無関係ではありません。

地球温暖化については、私たちは被害者であると同時に加害者でもあります。石油や石炭などの化石燃料を燃やし、CO₂を排出し続けているのは私たち自身です。自分たちの生活でエネルギー消費が増え続けていることを、しっかりと意識して省エネに取り

組むことが大切です。もちろん江戸時代の生活に戻ることはできませんが、せめて無駄なエネルギーは使わないように心がけましょう。



アンデスから崩落する氷河

アルゼンチンにて撮影。アンデスから崩落するペリト・モレノ氷河。地球温暖化によって氷河が滑り落ちる速度が早くなったと言われている。

(2002.1.1 栗林浩)

出典：全国地球温暖化防止活動推進センターホームページより



家庭で省エネに取り組む際の心がけ

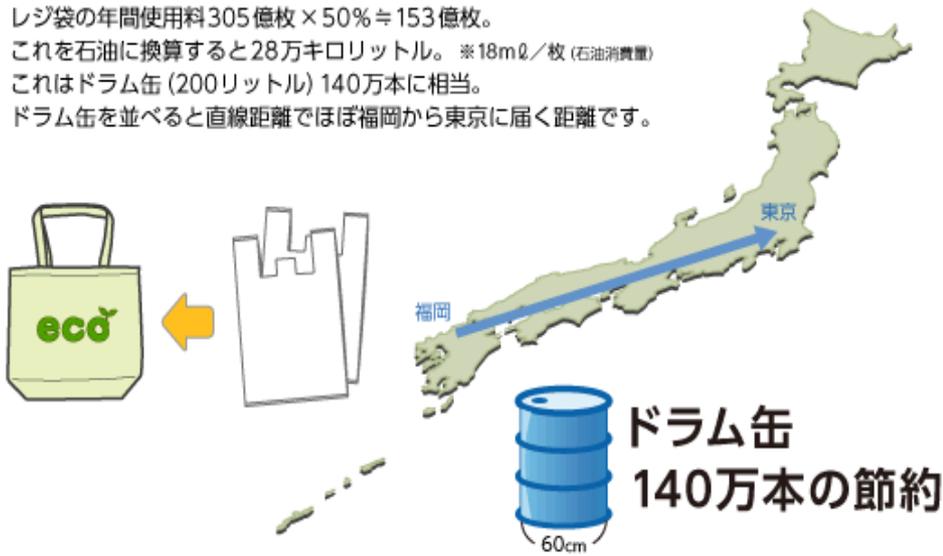
家庭での省エネは無理なく続けられることが大切です。電気をこまめに消す、冷暖房の設定温度を適正なものにする、冷蔵庫はモノを詰め過ぎないなど、心がけ次第でできることだと思います。慣れていないと最初はちょっと面倒に思うかもしれませんが、習慣にしてみるとそれほど負担には感じません。最初の一步を踏み出すことが大切だと思います。チリも積もれば山となるで、ひとつひとつの取り組みが大事なのです。

また、家庭では家族の協力も大切です。自分だけが節電に頑張っている、家族が電気をつけっぱなしでは何にもなりません。口うるさく思われても家族を巻き込む努力をしましょう。自分ひとりでは限度があっても、みんなで取り組めば大きな力になります。

小さな努力を積み重ねていると自然と結果が現れてきます。例えば電気をこまめに消していれば、電気代は年間で数千円ほども違ってきます。またスーパーにマイバッグを持参すれば、その分のポイントがついたり、レジ袋代が節約できたりします。レジ袋の有料化が進む現在では、60%以上がマイバッグを利用するようになったといわれています。省エネに取り組む最初の動機は「少しでも節約したい」という気持ちでもまったく構わないと思います。重要なのは、その行動が当たり前のことになり、たくさんの人に広がっていくことなのです。

マイバッグ持参でレジ袋の使用を50%削減した場合の効果

レジ袋の年間使用料305億枚 × 50% = 153億枚。
これを石油に換算すると28万キロリットル。 ※18mℓ/枚 (石油消費量)
これはドラム缶 (200リットル) 140万本に相当。
ドラム缶を並べると直線距離でほぼ福岡から東京に届く距離です。



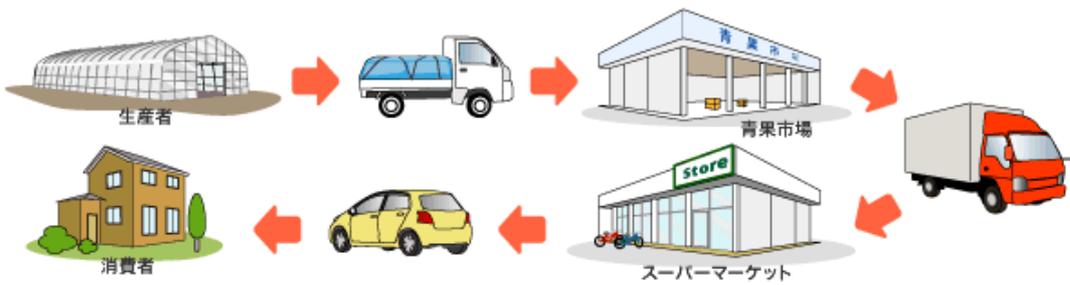
日頃意識しない間接エネルギー

生活の中には電気やガスのように直接消費するエネルギーとは別に、食べ物や製品を生産するために使用されるエネルギーがあり、これを「間接エネルギー」と呼んでいます。間接エネルギーは目に見えないため、日頃はほとんど意識することがありませんが、生産・流通・販売という過程では必ずエネルギーが使われているのです。

例えばキュウリ1本にしても、旬の露地ものと季節外れのハウス栽培では消費するエネルギー量が違います。また近くで収穫したものと、遠い場所から運ばれてきたものでは、輸送にかかるエネルギーも違います。こうしたことが分かってくると、省エネのためには季節のものを地産地消するのがいちばん良いと思うはずです。

身の回りにあるすべてのモノには生産のためのエネルギーが使われています。つまりモノがあふれているのはエネルギーがあふれているということで、モノを簡単に捨てるのはエネルギーの無駄遣いにほかなりません。このことに気づくと何でも大切に使うようになり、ゴミを出さない、あるいはリサイクルを心がけるようになるでしょう。またゴミを出す時もきちんと分別することで、その後のリサイクルがスムーズに進むようになります。

きゅうりが栽培されて家庭に届くまで

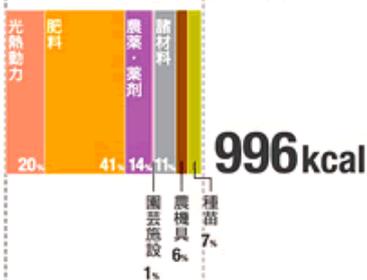


フードマイレージ

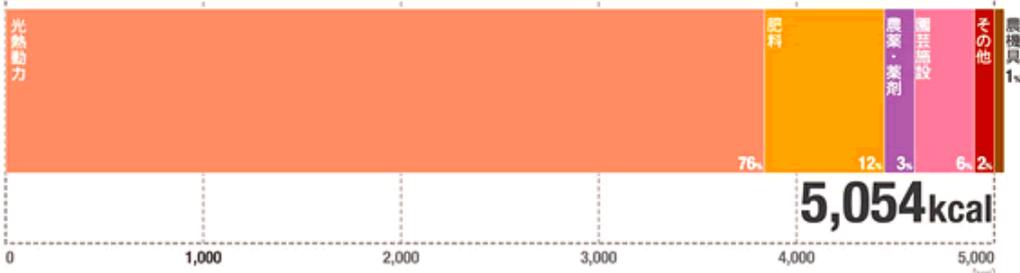
- ・食料の重量×輸送距離を表す。
- ・食品の生産地と消費地の距離が近いとフードマイレージは小さく、遠いと大きくなる。

きゅうり1kgあたりの 生産投入エネルギー量の内訳

露地・夏秋どりきゅうり



ハウス加温・冬春どりきゅうり



出典: 社団法人資源協会「家庭生活のライフサイクルエネルギー」



次の世代に向けて教育と普及活動を



これまでエネルギーについての講演活動も多く行ってきましたが、最近では省エネに対する消費者意識はずいぶん定着してきたと感じています。ほとんどの人が省エネやエコを意識していると言いますし、実際に省エネ家電も広く普及しています。けれども、そうした意識の高まりを上回る総体的なエネルギー消費が世の中では進んでいます。今後は、個々の省エネ努力に加え、省エネの街づくりや省エネハウスの普及など大きな取り組みも重要になってくるでしょう。

もうひとつ重要なことは教育です。若い世代はエネルギーについての知識がなく、毎日の生活の中でエネルギーについて意識することがありません。こうした層に正しい知識や情報を伝えていくことは非常に大切です。最後は教育がものをいうと思います。

この地球は私たちの代で終わりではありません。子どもの世代、孫の世代と続いています。子どもたちの時代、孫たちの時代に、エネルギー資源がちゃんと残っているだろうか。そして地球がちゃんと守られているだろうか。今こそきちんと考え、行動していく時だと思います。